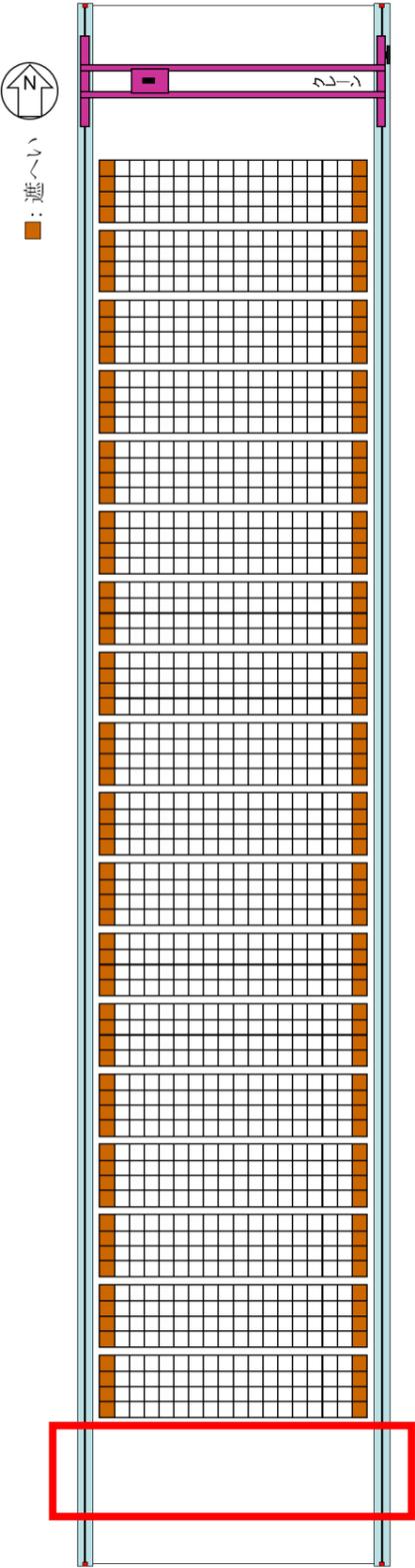
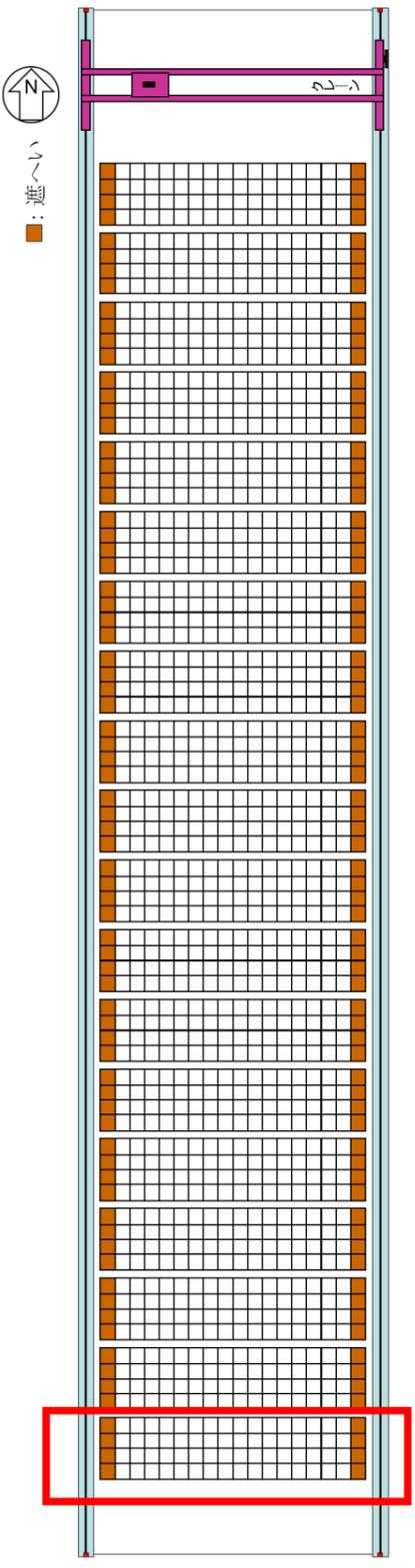
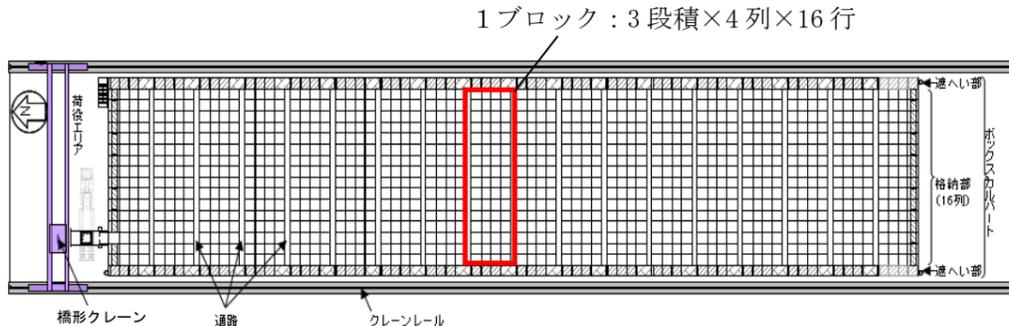
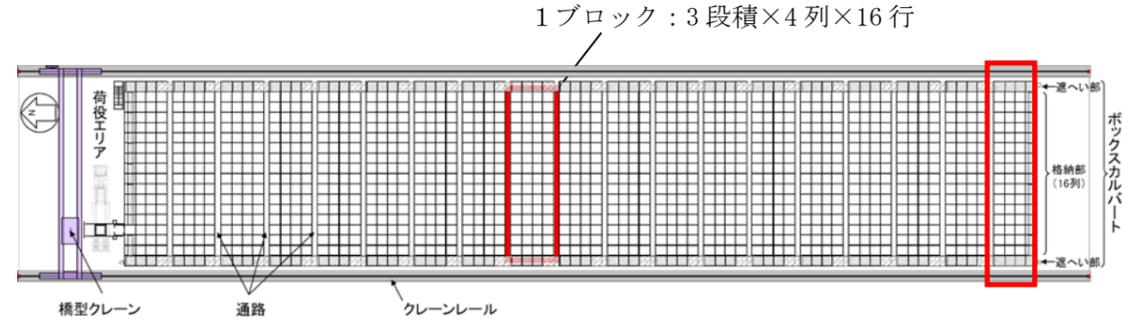
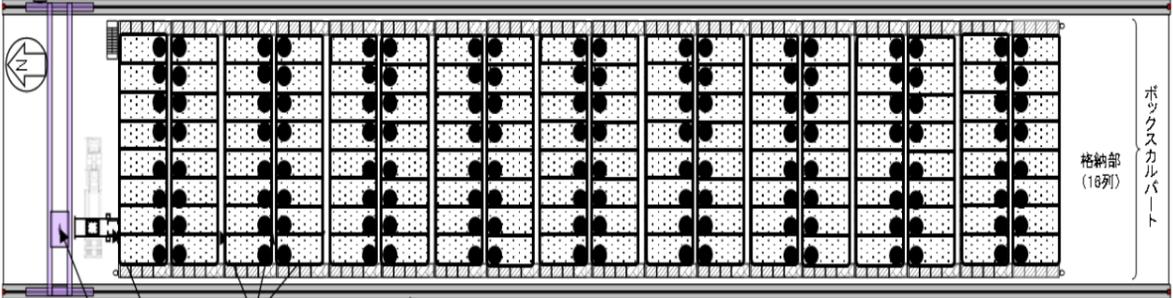
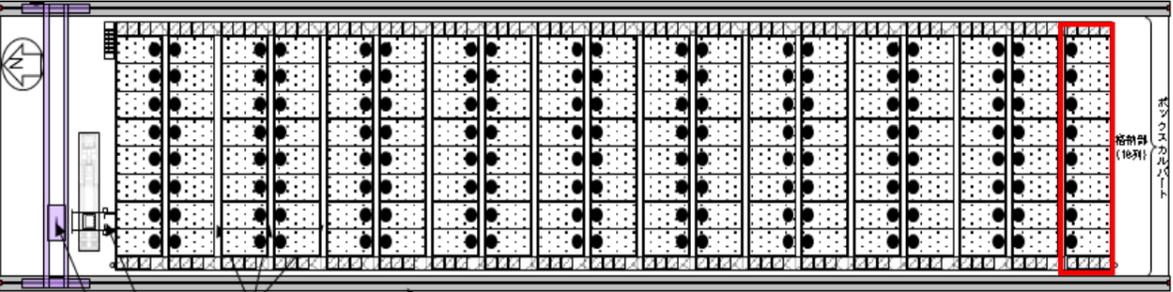


福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画変更比較表（第Ⅱ章 2.5 汚染水処理設備等）

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
<p>2.5 汚染水処理設備等 (中略)</p> <p>2.5.2 基本仕様 2.5.2.1 主要仕様 (中略)</p> <p>2.5.2.1.2 使用済セシウム吸着塔保管施設及び廃スラッジ貯蔵施設 (中略)</p> <p>(4) 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設） 吸着塔保管体数 <u>3,456</u>体（多核種除去設備高性能容器，増設多核種除去設備高性能容器）</p> <p>(中略)</p>	<p>2.5 汚染水処理設備等 (中略)</p> <p>2.5.2 基本仕様 2.5.2.1 主要仕様 (中略)</p> <p>2.5.2.1.2 使用済セシウム吸着塔保管施設及び廃スラッジ貯蔵施設 (中略)</p> <p>(4) 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設） 吸着塔保管体数 <u>3,648</u>体（多核種除去設備高性能容器，増設多核種除去設備高性能容器）</p> <p>(中略)</p>	<p>H I C 格納用ボックスカルバ ート保管体数の変更</p>

変更前	変更後	変更理由
<p style="text-align: center;">添付資料-2</p> <p style="text-align: center;">主要設備概要図</p> <p>(中略)</p>  <p style="text-align: center;">(c) 第三施設</p> <p style="text-align: center;">(d) 第四施設</p> <p style="text-align: center;">図-5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設概要図 (2/2)</p>	<p style="text-align: center;">添付資料-2</p> <p style="text-align: center;">主要設備概要図</p> <p>(中略)</p>  <p style="text-align: center;">(c) 第三施設</p> <p style="text-align: center;">(d) 第四施設</p> <p style="text-align: center;">図-5 使用済セシウム吸着塔一時保管施設概要図 (2/2)</p>	<p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更に伴う図面更新 (19ブロック目追加)</p>

変更前	変更後	変更理由
<p>(中略)</p> <p style="text-align: right;">添付資料-14</p> <p style="text-align: center;">使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）</p> <p>1. はじめに 多核種除去設備及び増設多核種除去設備の沈殿処理生成物及び使用済みの吸着材を収容した高性能容器(以下、HIC という)は放射線を発するため適切に遮へいして保管する必要がある。使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）(以下、第三施設あるいは本施設という)は高性能容器（タイプ2）を保管するために設置するものである。</p> <p>2. 基本設計 2.1 設計概要 本施設は HIC を取扱うための橋形クレーン、遮へい機能を有する蓋付きコンクリート製ボックスカルバート等により構成し、本施設における HIC の貯蔵体数は <b>3456</b> 基（3 段積×4 列×16 行×<b>18</b> ブロック）とする(図 1)。 また、設置エリアを図 2 に示す。</p> <div style="text-align: center;">  <p>1 ブロック：3 段積×4 列×16 行</p> <p>第三施設（平面図）</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">図 1 第三施設概要</p> <p>(中略)</p>	<p>(中略)</p> <p style="text-align: right;">添付資料-14</p> <p style="text-align: center;">使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）</p> <p>1. はじめに 多核種除去設備及び増設多核種除去設備の沈殿処理生成物及び使用済みの吸着材を収容した高性能容器(以下、HIC という)は放射線を発するため適切に遮へいして保管する必要がある。使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）(以下、第三施設あるいは本施設という)は高性能容器（タイプ2）を保管するために設置するものである。 <u>将来、HIC に収容する沈殿処理生成物をより安定した状態に処理できる設備について稼働時期の目途が得られた際には、設備稼働後も継続して保管が見込まれる HIC に対して数量やインベントリ等の評価を行い、評価結果を踏まえ適切な耐震性を確保した保管方法（補強策含む）を検討し、必要な措置を行う。</u></p> <p>2. 基本設計 2.1 設計概要 本施設は HIC を取扱うための橋形クレーン、遮へい機能を有する蓋付きコンクリート製ボックスカルバート等により構成し、本施設における HIC の貯蔵体数は <b>3648</b> 基（3 段積×4 列×16 行×<b>19</b> ブロック）とする(図 1)。 <u>なお、万一の HIC 落下破損による漏えい時に HIC を移設して漏えい物の回収等を行えるよう、十分な移設スペースを第二施設及び第三施設に確保する。</u> また、設置エリアを図 2 に示す。</p> <div style="text-align: center;">  <p>1 ブロック：3 段積×4 列×16 行</p> <p>第三施設（平面図）</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">図 1 第三施設概要</p> <p>(中略)</p>	<p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更に伴う記載の追加</p> <p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更</p> <p>H I C 移設スペース確保に関する記載の追加</p> <p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更に伴う図面更新（19 ブロック目追加）</p>

変更前	変更後	変更理由
<p>2.2 設計方針 (中略)</p> <p>2.2.1 移送中の落下を想定した HIC の健全性確認 本施設内で HIC を取扱うにあたり、HIC の落下防止策、万一を想定した HIC 落下時の衝撃緩和策および落下試験による落下時の健全性確認等を実施している。</p> <p>(1) 落下試験 HIC の健全性を確認する落下試験（試験条件と結果の詳細はⅡ-2-16-1 に記す）は、本施設に格納する HIC の移送経路（図 3）を網羅するよう計画・実施している。落下試験の結果、本施設で想定する全ての HIC 取扱い条件において落下を想定しても、HIC の健全性が保たれることを確認した。 また、万一の HIC 落下破損による漏えい時の対応として、HIC からの漏えい物の回収作業に必要な吸引車やボックスカルバート内にアクセスするための昇降設備等を配備し、吸引車の操作等に必要な要員を確保するとともに、手順書に基づいた漏えい物回収訓練及び吸引車の点検を定期的に行う。また、HIC 及び漏えい物の回収等においては、作業スペースを確保するために、破損した HIC だけでなく、周囲に格納されている HIC の移設も必要になる場合が想定されることから、<u>通気口で連絡している一つのボックスカルバート群に格納される最大 HIC 基数（96 基）の移設スペースを、第二施設及び第三施設に確保する。</u></p> <p>(中略)</p> <p>2.2.2 漏えい発生防止、拡大防止、検知機能 (中略)</p> <p>格納中の HIC からの漏えい検出については、HIC1 基の全量漏えいにおいて漏えいを検出できるように、漏えい検出装置を設置する（図 7）。漏えいを検出した場合には、免震重要棟集中監視室等に警報を発し、適切な対応を図る。</p>  <p>図 7 漏えい検出器設置図</p> <p><u>漏えい検出器未設置のエリアについては、底部に漏えい物の流れ込みがないことを容易に確認できるよう、ボックスカルバート連結範囲（図 1 2 参照）ごとに偏りなく選んだ 4 ヶ所を空き運用として漏えいの有無を確認する。連結範囲ごとに格納開始から 1 ヶ月ごとに 1 回（4 ヶ所、以下同じ）、格納完了後の 1 ヶ月以内に 1 回、以後 3 ヶ月以内ごとに 1 回の確認を行う。</u></p> <p>(中略)</p>	<p>2.2 設計方針 (中略)</p> <p>2.2.1 移送中の落下を想定した HIC の健全性確認 本施設内で HIC を取扱うにあたり、HIC の落下防止策、万一を想定した HIC 落下時の衝撃緩和策および落下試験による落下時の健全性確認等を実施している。</p> <p>(1) 落下試験 HIC の健全性を確認する落下試験（試験条件と結果の詳細はⅡ-2-16-1 に記す）は、本施設に格納する HIC の移送経路（図 3）を網羅するよう計画・実施している。落下試験の結果、本施設で想定する全ての HIC 取扱い条件において落下を想定しても、HIC の健全性が保たれることを確認した。 また、万一の HIC 落下破損による漏えい時の対応として、HIC からの漏えい物の回収作業に必要な吸引車やボックスカルバート内にアクセスするための昇降設備等を配備し、吸引車の操作等に必要な要員を確保するとともに、手順書に基づいた漏えい物回収訓練及び吸引車の点検を定期的に行う。また、HIC 及び漏えい物の回収等においては、作業スペースを確保するために、破損した HIC だけでなく、周囲に格納されている HIC の移設も必要になる場合が想定されることから、<u>十分な移設スペースを第二施設及び第三施設に確保する。移設スペースの基数は、パーティション設置による漏えい拡大防止や漏えい検出器による早期検知、回収作業の方法等を踏まえて手順書に明記する。</u></p> <p>(中略)</p> <p>2.2.2 漏えい発生防止、拡大防止、検知機能 (中略)</p> <p>格納中の HIC からの漏えい検出については、HIC1 基の全量漏えいにおいて漏えいを検出できるように、漏えい検出装置を設置する（図 7）。漏えいを検出した場合には、免震重要棟集中監視室等に警報を発し、適切な対応を図る。</p>  <p>図 7 漏えい検出器設置図</p> <p><u>(記載の削除)</u></p> <p>(中略)</p>	<p>H I C 移設スペース確保に関する記載の変更</p> <p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更に伴う図面更新（19 ブロック目追加）</p> <p>漏えい検出器設置完了に伴う記載の削除</p>

変更前	変更後	変更理由															
<p>2.2.3 遮へい機能 (中略)</p> <p>敷地境界線量評価に際しては、高線量HICとして<u>第III編3.2.2.2表2.2.2-1</u>にいうスラリー（鉄共沈処理）入りHIC432体及び吸着材3入りHIC432体を、低線量HICとして同じくスラリー（炭酸塩沈殿処理）入りHIC2592体をモデル化（図10は1ブロック分のみの配置を示す）している。</p> <p>2.16.1添付4別添2に示されたHICの線量評価の上限値にもとづき、スラリー（炭酸塩沈殿処理）よりHIC容器表面線量が小さい吸着材1、4及び5は低線量HICと、吸着材3より線量が低くスラリー（炭酸塩沈殿処理）より線量が高い吸着材2及び吸着材6は吸着材3とみなして高線量HICとして扱っている。</p> <p>スラリー（炭酸塩沈殿処理）及びスラリー（鉄共沈処理）の側面表面線量はそれぞれ28mSv/h、120mSv/hと評価されており、保管施設への格納時の各HICの側面表面線量実測値がこれ以下のもの（保守的に境界値をそれぞれ20mSv/h、100mSv/hとする）は、その測定値に応じてより低線量のHICとみなして配置することが可能である。また高線量HICを配置する場所に低線量HICを配置することは可能とする。</p> <p>以上、図10に示した配置を元に、<u>第III編3.2.2.2の方法を用いて</u>評価した結果、第三施設の最寄りの評価点（No.7）における直接線・スカイシャイン線の評価結果（表1）は年間約0.0174mSvとなる。<u>また、参考としてR0濃縮水貯槽に貯蔵された汚染水の影響を除く最大実効線量地点（No.71）における評価結果を記す。（2014年10月現在）</u></p> <table border="1" data-bbox="222 966 1142 1102"> <caption>表1 第三施設から敷地境界への線量影響</caption> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価地点までの距離 (m)</th> <th>年間線量 (mSv/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No.7</td> <td>約180</td> <td>約0.0174</td> </tr> <tr> <td><u>(参考) No.71</u></td> <td><u>約1570</u></td> <td><u>0.0001未満</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>(中略)</p> <p>2.3 自然災害対策等 (1)津波 <u>本施設は、アウターライズ津波が到達しないと考えられるT.P.約28m以上の場所に設置する。</u></p> <p>(以下、省略)</p>	評価点	評価地点までの距離 (m)	年間線量 (mSv/年)	No.7	約180	約0.0174	<u>(参考) No.71</u>	<u>約1570</u>	<u>0.0001未満</u>	<p>2.2.3 遮へい機能 (中略)</p> <p>敷地境界線量評価に際しては、高線量HICとして<u>「III特定原子力施設の保安 第3編2.2.2敷地内各施設からの直接線ならびにスカイシャイン線による実効線量」表2.2.2-1</u>におけるスラリー（鉄共沈処理）入りHIC456体及び吸着材3入りHIC456体を、低線量HICとして同じくスラリー（炭酸塩沈殿処理）入りHIC2736体をモデル化（図10は1ブロック分のみの配置を示す）している。</p> <p>2.16.1添付4別添2に示されたHICの線量評価の上限値にもとづき、スラリー（炭酸塩沈殿処理）よりHIC容器表面線量が小さい吸着材1、4及び5は低線量HICと、吸着材3より線量が低くスラリー（炭酸塩沈殿処理）より線量が高い吸着材2及び吸着材6は吸着材3とみなして高線量HICとして扱っている。</p> <p>スラリー（炭酸塩沈殿処理）及びスラリー（鉄共沈処理）の側面表面線量はそれぞれ28mSv/h、120mSv/hと評価されており、保管施設への格納時の各HICの側面表面線量実測値がこれ以下のもの（保守的に境界値をそれぞれ20mSv/h、100mSv/hとする）は、その測定値に応じてより低線量のHICとみなして配置することが可能である。また高線量HICを配置する場所に低線量HICを配置することは可能とする。</p> <p>以上、図10に示した配置を元に、<u>「III特定原子力施設の保安 第3編2.2.2敷地内各施設からの直接線ならびにスカイシャイン線による実効線量」に記載の方法にて</u>評価した結果、第三施設の最寄りの評価点（No.7）における直接線・スカイシャイン線の評価結果（表1）は年間約0.0202mSvとなる。</p> <table border="1" data-bbox="1439 966 2359 1071"> <caption>表1 第三施設から敷地境界への線量影響</caption> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価地点までの距離 (m)</th> <th>年間線量 (mSv/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No.7</td> <td>約180</td> <td>約0.0202</td> </tr> </tbody> </table> <p>(中略)</p> <p>2.3 自然災害対策等 (1)津波 <u>使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）は津波が到達しないと考えられるT.P.約33.5m以上の場所に設置する。</u></p> <p>(以下、省略)</p>	評価点	評価地点までの距離 (m)	年間線量 (mSv/年)	No.7	約180	約0.0202	<p>記載の適正化</p> <p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更</p> <p>記載の適正化</p> <p>線量評価の見直しに伴う記載の変更</p> <p>記載の適正化</p>
評価点	評価地点までの距離 (m)	年間線量 (mSv/年)															
No.7	約180	約0.0174															
<u>(参考) No.71</u>	<u>約1570</u>	<u>0.0001未満</u>															
評価点	評価地点までの距離 (m)	年間線量 (mSv/年)															
No.7	約180	約0.0202															

変更前	変更後	変更理由
<p>2.16 放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設 2.16.1 多核種除去設備</p> <p>(中略)</p> <p style="text-align: center;">添付資料－4 多核種除去設備の具体的な安全確保策</p> <p>(中略)</p> <p>6. その他</p> <p>(中略)</p> <p>(2) 高性能容器の発生量</p> <p>(中略)</p> <p>高性能容器（タイプ2）は、使用済セシウム吸着塔一時保管施設のうち、第二施設（保管容量736基）及び第三施設（保管容量<u>3,456</u>基）に保管する。 なお、必要に応じて使用済セシウム吸着塔一時保管施設を増設する。</p> <p>(以下、省略)</p>	<p>2.16 放射性液体廃棄物処理施設及び関連施設 2.16.1 多核種除去設備</p> <p>(中略)</p> <p style="text-align: center;">添付資料－4 多核種除去設備の具体的な安全確保策</p> <p>(中略)</p> <p>6. その他</p> <p>(中略)</p> <p>(2) 高性能容器の発生量</p> <p>(中略)</p> <p>高性能容器（タイプ2）は、使用済セシウム吸着塔一時保管施設のうち、第二施設（保管容量736基）及び第三施設（保管容量<u>3,648</u>基）に保管する。 なお、必要に応じて使用済セシウム吸着塔一時保管施設を増設する。</p> <p>(以下、省略)</p>	<p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更</p>

変 更 前	変 更 後	変 更 理 由
<p>2.16.2 増設多核種除去設備</p> <p>(中略)</p> <p style="text-align: right;">添付資料－7</p> <p style="text-align: center;">増設多核種除去設備の具体的な安全確保策</p> <p>(中略)</p> <p>5. その他</p> <p>(中略)</p> <p>(2) 高性能容器の発生量</p> <p>(中略)</p> <p>高性能容器（タイプ2）は、使用済セシウム吸着塔一時保管施設のうち、第二施設（保管容量 736 基）及び第三施設（保管容量 <u>3,456</u> 基）に保管する。          なお、必要に応じて使用済セシウム吸着塔一時保管施設を増設する。</p> <p>(以下、省略)</p>	<p>2.16.2 増設多核種除去設備</p> <p>(中略)</p> <p style="text-align: right;">添付資料－7</p> <p style="text-align: center;">増設多核種除去設備の具体的な安全確保策</p> <p>(中略)</p> <p>5. その他</p> <p>(中略)</p> <p>(2) 高性能容器の発生量</p> <p>(中略)</p> <p>高性能容器（タイプ2）は、使用済セシウム吸着塔一時保管施設のうち、第二施設（保管容量 736 基）及び第三施設（保管容量 <u>3,648</u> 基）に保管する。          なお、必要に応じて使用済セシウム吸着塔一時保管施設を増設する。</p> <p>(以下、省略)</p>	<p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更</p>

福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画変更比較表 (第III章 第3編 2.2.2 敷地内各施設からの直接線ならびにスカイシャイン線による実効線量)

変更前	変更後	変更理由
<p>2.2.2 敷地内各施設からの直接線ならびにスカイシャイン線による実効線量 (中略)</p> <p>2.2.2.2 各施設における線量評価 2.2.2.2.1 使用済セシウム吸着塔保管施設, 大型廃棄物保管庫, 廃スラッジ貯蔵施設及び貯留設備 (タンク類)  (中略)</p> <p>(1)使用済セシウム吸着塔一時保管施設  (中略)</p> <p>c. 第三施設 容 量 : 高性能容器 (HIC) : <u>3,456</u> 体 放射能強度 : 表2.2.2-1 参照 遮 蔽 : コンクリート製ボックスカルバート : 150mm (通路側 400mm) , 密度 2.30g/cm<sup>3</sup> 蓋 : 重コンクリート 400mm, 密度 3.20g/cm<sup>3</sup>  評価地点までの距離 : 約 1570m 線源の標高 : T.P.約 <u>33</u>m 評価結果 : 約 0.0001mSv/年未満 ※影響が小さいため線量評価上無視する</p> <p>d. 第四施設 容 量 : セシウム吸着装置吸着塔 : 680 体 第二セシウム吸着装置吸着塔 : 345 体  i. セシウム吸着装置吸着塔 放射能強度 : 添付資料-1 表1及び<u>図3</u>参照 遮 蔽 : 吸着塔側面 : 鉄 177.8mm (K1~K3 : 85.7mm) 吸着塔一次蓋 : 鉄 222.5mm (K1~K3 : 174.5mm) 吸着塔二次蓋 : 鉄 127mm (K1~K3 : 55mm) コンクリート製ボックスカルバート : 203mm (蓋厚さ 400mm) , 密度 2.30g/cm<sup>3</sup>  評価地点までの距離 約 610m 線源の標高 : T.P.約 35m</p> <p>ii. 第二セシウム吸着装置吸着塔 放射能強度 : 添付資料-1 表3及び<u>図3</u>参照 遮 蔽 : 吸着塔側面 : 鉄 35mm, 鉛 190.5mm 吸着塔上面 : 鉄 35mm, 鉛 250.8mm  評価地点までの距離 : 約 610m 線源の標高 : T.P.約 35m 評価結果 : 約 4.01×10<sup>-2</sup>mSv/年</p>	<p>2.2.2 敷地内各施設からの直接線ならびにスカイシャイン線による実効線量 (中略)</p> <p>2.2.2.2 各施設における線量評価 2.2.2.2.1 使用済セシウム吸着塔保管施設, 大型廃棄物保管庫, 廃スラッジ貯蔵施設及び貯留設備 (タンク類)  (中略)</p> <p>(1)使用済セシウム吸着塔一時保管施設  (中略)</p> <p>c. 第三施設 容 量 : 高性能容器 (HIC) : <u>3,648</u> 体 放射能強度 : 表2.2.2-1 参照 遮 蔽 : コンクリート製ボックスカルバート : 150mm (通路側 400mm) , 密度 2.30g/cm<sup>3</sup> 蓋 : 重コンクリート 400mm, 密度 3.20g/cm<sup>3</sup>  評価地点までの距離 : 約 1570m 線源の標高 : T.P.約 <u>35</u>m 評価結果 : 約 0.0001mSv/年未満 ※影響が小さいため線量評価上無視する</p> <p>d. 第四施設 容 量 : セシウム吸着装置吸着塔 : 680 体 第二セシウム吸着装置吸着塔 : 345 体  i. セシウム吸着装置吸着塔 放射能強度 : 添付資料-1 表1及び<u>図2</u>参照 遮 蔽 : 吸着塔側面 : 鉄 177.8mm (K1~K3 : 85.7mm) 吸着塔一次蓋 : 鉄 222.5mm (K1~K3 : 174.5mm) 吸着塔二次蓋 : 鉄 127mm (K1~K3 : 55mm) コンクリート製ボックスカルバート : 203mm (蓋厚さ 400mm) , 密度 2.30g/cm<sup>3</sup>  評価地点までの距離 約 610m 線源の標高 : T.P.約 35m</p> <p>ii. 第二セシウム吸着装置吸着塔 放射能強度 : 添付資料-1 表3及び<u>図2</u>参照 遮 蔽 : 吸着塔側面 : 鉄 35mm, 鉛 190.5mm 吸着塔上面 : 鉄 35mm, 鉛 250.8mm  評価地点までの距離 : 約 610m 線源の標高 : T.P.約 35m 評価結果 : 約 4.01×10<sup>-2</sup>mSv/年</p>	<p>H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更</p> <p>標高記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

変更前	変更後	変更理由
<p>(中略)</p> <p>(2)大型廃棄物保管庫            容 量：第二セシウム吸着装置吸着塔：540 体            遮 蔽：天井及び壁：コンクリート 厚さ 約 200mm, 密度 約 2.1g/cm<sup>3</sup>            i. 第二セシウム吸着装置吸着塔            放射能強度：添付資料-1 表3及び図4参照            遮 蔽：吸着塔側面：鉄 35mm, 鉛 190.5mm                      吸着塔上面：鉄 35mm, 鉛 250.8mm            評価地点までの距離：約 480m            線源の標高：T.P.約 26m            評価結果：約 1.51×10<sup>-2</sup>mSv/年</p> <p>(中略)</p>	<p>(中略)</p> <p>(2)大型廃棄物保管庫            容 量：第二セシウム吸着装置吸着塔：540 体            遮 蔽：天井及び壁：コンクリート 厚さ 約 200mm, 密度 約 2.1g/cm<sup>3</sup>            i. 第二セシウム吸着装置吸着塔            放射能強度：添付資料-1 表3及び図3参照            遮 蔽：吸着塔側面：鉄 35mm, 鉛 190.5mm                      吸着塔上面：鉄 35mm, 鉛 250.8mm            評価地点までの距離：約 480m            線源の標高：T.P.約 26m            評価結果：約 1.51×10<sup>-2</sup>mSv/年</p> <p>(中略)</p>	<p>記載の適正化</p>

福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画変更比較表 (第Ⅲ章 第3編 2.2.2 敷地内各施設からの直接線ならびにスカイシャイン線による実効線量)

変更前			変更後			変更後			変更理由		
敷地境界における直接線・スカイシャイン線の評価結果			敷地境界における直接線・スカイシャイン線の評価結果			敷地境界における直接線・スカイシャイン線の評価結果			H I C 格納用ボックスカルバート保管体数の変更に伴う記載の変更		
敷地境界評価地点	評価地点の標高「m」	敷地内各施設からの直接線・スカイシャイン線「単位:mSv/年」	敷地境界評価地点	評価地点の標高「m」	敷地内各施設からの直接線・スカイシャイン線「単位:mSv/年」	敷地境界評価地点	評価地点の標高「m」	敷地内各施設からの直接線・スカイシャイン線「単位:mSv/年」			
No.1	T.P.約4	0.06	No.51	T.P.約32	0.02	No.1	T.P.約4	0.06	No.51	T.P.約32	0.02
No.2	T.P.約18	0.11	No.52	T.P.約39	0.03	No.2	T.P.約18	0.11	No.52	T.P.約39	0.03
No.3	T.P.約18	0.10	No.53	T.P.約39	0.16	No.3	T.P.約18	0.10	No.53	T.P.約39	0.16
No.4	T.P.約19	0.18	No.54	T.P.約39	0.16	No.4	T.P.約19	0.18	No.54	T.P.約39	0.16
No.5	T.P.約16	0.28	No.55	T.P.約39	0.04	No.5	T.P.約16	0.29	No.55	T.P.約39	0.04
No.6	T.P.約16	0.29	No.56	T.P.約33	0.01	No.6	T.P.約16	0.29	No.56	T.P.約33	0.01
No.7	T.P.約21	0.52	No.57	T.P.約39	0.02	No.7	T.P.約21	0.53	No.57	T.P.約39	0.02
No.8	T.P.約16	0.31	No.58	T.P.約39	0.04	No.8	T.P.約16	0.31	No.58	T.P.約39	0.04
No.9	T.P.約14	0.16	No.59	T.P.約39	0.09	No.9	T.P.約14	0.17	No.59	T.P.約39	0.09
No.10	T.P.約15	0.09	No.60	T.P.約41	0.05	No.10	T.P.約15	0.09	No.60	T.P.約41	0.05
No.11	T.P.約17	0.18	No.61	T.P.約42	0.02	No.11	T.P.約17	0.18	No.61	T.P.約42	0.02
No.12	T.P.約17	0.14	No.62	T.P.約38	0.02	No.12	T.P.約17	0.14	No.62	T.P.約38	0.02
No.13	T.P.約16	0.13	No.63	T.P.約44	0.04	No.13	T.P.約16	0.14	No.63	T.P.約44	0.04
No.14	T.P.約18	0.14	No.64	T.P.約44	0.07	No.14	T.P.約18	0.15	No.64	T.P.約44	0.07
No.15	T.P.約21	0.13	No.65	T.P.約41	0.14	No.15	T.P.約21	0.13	No.65	T.P.約41	0.14
No.16	T.P.約26	0.11	No.66	T.P.約40	0.53	No.16	T.P.約26	0.11	No.66	T.P.約40	0.53
No.17	T.P.約34	0.15	No.67	T.P.約39	0.31	No.17	T.P.約34	0.15	No.67	T.P.約39	0.31
No.18	T.P.約37	0.09	No.68	T.P.約37	0.42	No.18	T.P.約37	0.09	No.68	T.P.約37	0.42
No.19	T.P.約33	0.03	No.69	T.P.約36	0.27	No.19	T.P.約33	0.03	No.69	T.P.約36	0.27
No.20	T.P.約37	0.04	No.70	T.P.約35	0.57	No.20	T.P.約37	0.04	No.70	T.P.約35	0.57
No.21	T.P.約38	0.03	No.71	T.P.約32	0.59	No.21	T.P.約38	0.03	No.71	T.P.約32	0.59
No.22	T.P.約34	0.02	No.72	T.P.約29	0.52	No.22	T.P.約34	0.02	No.72	T.P.約29	0.52
No.23	T.P.約35	0.02	No.73	T.P.約29	0.25	No.23	T.P.約35	0.02	No.73	T.P.約29	0.25
No.24	T.P.約38	0.03	No.74	T.P.約35	0.11	No.24	T.P.約38	0.03	No.74	T.P.約35	0.11
No.25	T.P.約39	0.03	No.75	T.P.約31	0.08	No.25	T.P.約39	0.03	No.75	T.P.約31	0.08
No.26	T.P.約32	0.02	No.76	T.P.約31	0.12	No.26	T.P.約32	0.02	No.76	T.P.約31	0.12
No.27	T.P.約31	0.02	No.77	T.P.約15	0.43	No.27	T.P.約31	0.02	No.77	T.P.約15	0.43
No.28	T.P.約39	0.04	No.78	T.P.約19	0.49	No.28	T.P.約39	0.04	No.78	T.P.約19	0.49
No.29	T.P.約39	0.12	No.79	T.P.約19	0.25	No.29	T.P.約39	0.12	No.79	T.P.約19	0.25
No.30	T.P.約39	0.12	No.80	T.P.約19	0.08	No.30	T.P.約39	0.12	No.80	T.P.約19	0.08
No.31	T.P.約39	0.04	No.81	T.P.約35	0.12	No.31	T.P.約39	0.04	No.81	T.P.約35	0.12
No.32	T.P.約31	0.01	No.82	T.P.約38	0.22	No.32	T.P.約31	0.01	No.82	T.P.約38	0.22
No.33	T.P.約33	0.01	No.83	T.P.約40	0.12	No.33	T.P.約33	0.01	No.83	T.P.約40	0.12
No.34	T.P.約38	0.02	No.84	T.P.約41	0.05	No.34	T.P.約38	0.02	No.84	T.P.約41	0.05
No.35	T.P.約38	0.02	No.85	T.P.約37	0.03	No.35	T.P.約38	0.02	No.85	T.P.約37	0.03
No.36	T.P.約39	0.05	No.86	T.P.約33	0.05	No.36	T.P.約39	0.05	No.86	T.P.約33	0.05
No.37	T.P.約39	0.13	No.87	T.P.約26	0.06	No.37	T.P.約39	0.13	No.87	T.P.約26	0.06
No.38	T.P.約39	0.13	No.88	T.P.約22	0.15	No.38	T.P.約39	0.13	No.88	T.P.約22	0.15
No.39	T.P.約39	0.04	No.89	T.P.約20	0.35	No.39	T.P.約39	0.04	No.89	T.P.約20	0.35
No.40	T.P.約32	0.01	No.90	T.P.約20	0.49	No.40	T.P.約32	0.01	No.90	T.P.約20	0.49
No.41	T.P.約31	0.01	No.91	T.P.約20	0.34	No.41	T.P.約31	0.01	No.91	T.P.約20	0.34
No.42	T.P.約39	0.03	No.92	T.P.約21	0.51	No.42	T.P.約39	0.03	No.92	T.P.約21	0.51
No.43	T.P.約39	0.11	No.93	T.P.約20	0.53	No.43	T.P.約39	0.11	No.93	T.P.約20	0.53
No.44	T.P.約39	0.11	No.94	T.P.約28	0.41	No.44	T.P.約39	0.11	No.94	T.P.約28	0.41
No.45	T.P.約39	0.04	No.95	T.P.約21	0.27	No.45	T.P.約39	0.04	No.95	T.P.約21	0.27
No.46	T.P.約30	0.01	No.96	T.P.約19	0.15	No.46	T.P.約30	0.01	No.96	T.P.約19	0.15
No.47	T.P.約32	0.01	No.97	T.P.約15	0.06	No.47	T.P.約32	0.01	No.97	T.P.約15	0.06
No.48	T.P.約39	0.03	No.98	T.P.約23	0.08	No.48	T.P.約39	0.03	No.98	T.P.約23	0.08
No.49	T.P.約39	0.03	No.99	T.P.約25	0.04	No.49	T.P.約39	0.03	No.99	T.P.約25	0.04
No.50	T.P.約35	0.02	No.100	T.P.約-1	0.02	No.50	T.P.約35	0.02	No.100	T.P.約-1	0.02

(以下、省略)

(以下、省略)